

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>本事業は、地域の大人たちが子どもの健康と安全を自律的に保障する学校地域社会が形成されることを上位目標と位置付けている。</p> <p>(ア)保護者の学校運営能力向上から発展して、保護者が老朽化した教室を自律的に構造補修した事例などが発現した。(イ)地域保健戦略の強化での地域保健ボランティア(CHV)を育成から発展して、CHV が小学校で保護者に対して、子どもの保護や健康を守るための保健学習会の開催や保健活動の提案などの活動へと発展した。また、(ウ)行政関係者との協働から発展して、保健局が同局所属の行政官である地域保健普及官(CHEW)の育成に取り組むようになった。</p> <p>これらの事業を起点とした発展的な傾向は、本事業の上位目標の達成に向かった着実な社会の進展であると評価できる。</p> <p>それにより、持続可能な開発目標(SDGs)の目標 3 ターゲット 3.8 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成ならびに目標 4 ターゲット 4.1 質の高い初等教育および中等教育の修了のうち初等教育部門の状況改善に貢献している。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>本事業は、(ア)保護者の学校運営能力向上、(イ)地域保健戦略(CHS)の強化の相乗効果を目指し、2 年次までに(イ)地域保健戦略の強化を実施した 5 準地区に、ムシングニ準地区を加えた計 6 準地区を優先準地区としている。当初、教室補修対象校として検討していた優先準地区内の 2 校は、外部からの資金提供により教室補修を実施すること、6 優先準地区にエンデーイ準地区を加えた計 7 準地区で(ア)学校運営能力向上事業を展開した。</p> <p>(ア) 保護者の学校運営能力向上</p> <p>1、2 年次の 5 準地区では、継続して小学校の保護者が教室の構造補修等に参加し、子どもの健康に関する技能・視点を習得している。新たな 2 準地区では、実地調査後、教育官と協議し対象校を選定、活動を開始した。</p> <p>a. 教室構造補修:3 年次 7 校 14 教室の計画に対し、9 校 16 教室で教室補修を完了した。また、2 年次年度末までに資材を供与し、作業を継続していた 6 校 6 教室の補修を完了した。</p> <p>b. 教室建設:教室建設は、3 年次 1 校 1 教室の計画。対象準地区では、新たな教室が必要な学校がなかったため、教室構造補修が必要で且つ意欲のある学校への補修へ予算を充当した。</p> <p>c. リテンド(土留め)壁建設:土壌浸食により脆弱になった教室基礎の周りにリテンド壁を設置し、教室の安定を確保する活動は 2 校の計画に対し 1 校で実施した。</p> <p>d. 水タンク設置:マチャコス郡地方政府が、マシング準郡の全校へ大型水タンクを供与したため、3 年次は予算計上しなかった。</p> <p>e. 保護者の環境活動:環境活動は 2 校で実施する計画に対し、3 校で石を使用した土壌保全、樹木苗の育苗研修、乾燥野菜の研修、乾燥野菜を水に戻した給食の実演などを実施した。</p> <p>f. NGCDF の教室補修への助言: 3 年次に 2 校で行う計画に対し、2 校で当会の協力を合意していたが、大統領選挙の遅延の影響を受けて、事業終了までに NGCDF からの資金供与が実施されず、活動できなかった。</p> <p>g. 上記 6 つの活動における保健研修: 当会が育成した CHV が、研修での知識を活かし地元の小学校 18 校で保護者へ栄養学習会を行った。</p> <p>(イ)地域保健戦略の強化</p> <p>2 年次までに形成した 4 地域保健単位(CHU)の活性化への活動を継続しつつ、新たに 1CHU を形成し、先行 2CHU の再活性も実施した。</p> <p>a. 地域リーダー保健研修:CHV 研修の導入として地域リーダーへの保健研修を 3 年次 1 準地区 40 人に実施する計画だったが、2 年次に先行して研修を完了したため、3 年次は実施しなかった。</p>

- b. **CHVを知らせるための村訪問**:1準地区全村を訪問し、15村30回の訪問で600人との村人会議を開催する計画に対し、1準地区20村を42回訪問し965人が参加した。CHVの意義・役割と無報酬であること、住民がCHVを支援する意味を説明し、CHV候補56人を選出した。
- c. **CHV育成研修**:4週間の地域保健戦略とヘルスケアの理論研修、住民の健康情報を収集する実践研修、医療施設での医療実務研修を1準地区で45人が終了する計画に対し、32名が研修を修了した。
- d. **CHVフォローアップ研修**:先行2CHUを含めた7CHUにおいて、日常の保健活動を開始したCHVに追加的な研修を各CHUで3回、計21回実施、525人が参加する計画に対し、子どもの保護研修、早期性交渉予防研修、衛生と栄養、診療所看護官によるエイズ研修、教授法研修など、計28回実施、のべ821名が参加した。
- e. **エイズ・リーダー研修**:CHVが住民へエイズ情報を提供する能力向上研修を4準地区100人に実施する計画に対し、1準地区では2年次に先行して研修を実施、残り3準地区での研修を実施し、83名が修了した。
- f. **CHVによる学習会(CHVによるエイズ学習会)**:CHVによるエイズ学習会を20村で開催する予定から、エイズおよびフォローアップ研修を受講したCHVが、自らの村で、住民を集めて地域学習会を40村で開催、住民600人が参加する計画に変更した。CHVが、エイズ学習会に加え、子どもの保護、早期性交渉予防学習会をのべ46村で50回実施し、のべ990名が参加した。さらに、新たな発展としてCHVによる小学校での保護者学習会として、乾燥野菜による給食の栄養改善、子どもの保護、エイズ、早期妊娠予防学習会などを18校で39回開催し、のべ1519名が参加した。
- g. **先行CHUの再活性化**:事業対象地域内で先行して形成されているCHUのうち2CHUで再活性化研修を実施し、45名が修了した。

(ウ)行政関係者との協働

当会と行政関係者と協働で、地域の問題分析、事業形成、モニタリング、評価を実施し、実施マニュアルを作成する活動に取り組んだ。

- a. **準郡レベルの行政関係者会議**:準郡中央行政局・保健局・教育局等と個別に関係者会議を、3年次年2回計10回開催する計画に対して、準郡中央行政局1回、保健局32回、教育局2回、児童局5回、国会議員選挙区開発基金(NGCDF)事務局2回の計42回実施した。CHVの地域保健活動への積極的な関与を促しCHUを活性化させるため、保健局とは頻繁に関係者会議を実施した。また、児童局とは、CHVからの要望があった子どもの保護研修やCHVによる学習会の形成・改善を協働で進めた。
- b. **地区レベルの行政関係者会議**:深刻な課題が発生した場合、臨時に協議するため3年次には0回の計画であったが、教室補修などについて3教育区教育官5回、子どもの保護手続きについて1地区長1回の協議を実施した。
- c. **準地区レベルのリーダー会議**:CHUの形成および再活性化に取り組む8準地区において3年次計10回の関係者会議の開催の計画に対して、7準地区で準地区長との協議38回、担当保健官との協議19回、地域リーダー会議5回を開催した。保健局主催の保健キャンペーン MALEZI BORA DAY(マレジ・ボラ)と世界トイレデーへ協力し、保健局と地域のCHVとの協働を支援した。
- d. **看護官への地域保健普及官(CHEW)研修**:保健局との協働で、CHVを監督するCHEWへの能力向上研修を1回50人に実施する計画に対して、1回で新任の看護官・臨床医38名が修了した。

(3) 達成された成果

(ア) 保護者の学校運営能力向上

【達成された成果】

保護者が、子どもの健康と安全の保障に関する知識・技能・視点を習得し、学校運営へ主体的に参加することで、安全な学習環境の形成を自律的に展開することができた。これにより、SDG 目標 4.1 のうち、質の高い初等教育の修了に貢献した。

【成果を測る指標】

- a. 教室の構造補修、建設により良好な学習環境が形成され、子どもたちが安全に授業を受けることができる教室数が目標以上に増加した。
【3年間目標】増加分 83 教室うち本事業 41 教室、住民活動 42 教室
【3年間実績】増加分 160 教室うち本事業 47 教室、当会の他事業 17 教室、NGCDF による住民活動 89 教室、自己資金による住民活動 7 教室
(注)事業開始時に総教室数 63 校 504 教室のうち 75%が適切な教室と推定していたが、事業実施での経験から脆弱な教室は推定の 25%より多いため、増加数のみで評価した。b.も同じ。
- b. 安全な教室で授業を受けることができる生徒数が目標以上に増加した。
【3年間目標】増加分 2,905 人(83 教室改善)
【3年間実績】増加分 5,600 人(160 教室改善)
(注)1 教室の平均生徒数 35 人から計算

【その他の成果】

ミアンゲニ小学校での教室補修では、本事業に反対する保護者も多かったが、1教室の補修の完了により意欲が高まり、2教室目は反対した保護者がリーダーとなり、本事業での3教室の補修、1教室の自律的補修、さらに事業終了時には1教室の建設が上部壁まですすんでいた。同校は、高校のような立派な学校になったと地域で評価され、転入希望者も増えている。

イシュコニ小学校では、4教室補修に加え、自律的に2トイレ建設、1教室の床の補修を行なった。同校は、転入者が増え、2016年から2018年2月にかけて、生徒数が、100名以上増加した。

キタンビオニ小学校では、3教室補修後、自律的に調理室を建設した。また、保護者3名が、職人補助として、近隣の教会建設にも参加した。

マビアマイウ小学校では、本事業での教室補修の経験から、保護者は、政府交付金の施設維持費の使用が不適切であることに気づき、視学官、教育官、エカラカラ準地区長との会議で、校長の学校運営に関する問題を訴えた。それにより、校長の異動による問題解決に寄与した。

(イ) 地域保健戦略の強化

【期待された成果】

CHV が無償の保健活動を地域で実践し、子どもの健康と安全を守る行動が発現した。なお、CHV の活動実践は、SDG 目標 3.8 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成に貢献した。

【成果を測る指標】

- a. 対象準郡東部(20 準地区)において「本事業の CHU 形成」と「当会助言による準郡保健局の自律的な CHU 形成」により、無償保健活動の基盤となる CHU が形成・活性化された。当初、新たに形成する CHU と既存 CHU との合計数を形成率として、その改善を指標としていたが、事業開始後に準郡保健局より既存 CHU の多くが機能していないとの告知があり、形成率が意味を失ったため新規形成、活性化数のみで評価した。
CHU 新規形成・活性化数:
【開始時】準郡東部 20 準地区:CHU 必要数 22;新規形成・活性化数 0)
【3年間目標】CHU 必要数 22;新規形成数 9
(本事業での形成数 5)(準郡保健局の自律的な形成数 4)
【3年間実績】CHU 必要数 22;新規形成・活性化数 10
(本事業での形成数 5;活性化数 2)(当会の他事業での形成数 3)(準郡保健局の自律的な形成数 0)

(注)準郡保健局はマチャコス地方政府に自律的な CHU 形成の提案を続け、前向きな回答を得てはいたが、事業期間内での資金交付には至らなかった。

【その他の成果】

CHV が無償の保健活動を地域で実践し、子どもの健康と安全を守る行動の発現にむけ、CHV へのフォローアップ研修として、子どもの保護、エイズ、早期性交渉予防、衛生と栄養、教授法研修を実施した。この研修に基づき、CHV が実施した 46 村 50 回の保健学習会にのべ 990 名の住民、19 校 39 回に保健学習会にのべ 1519 名の保護者が参加し、合わせてのべ 2509 名が CHV から保健知識を学び、子どもの健康と安全を守る日常活動の実践が促された。また、CHV の活動を支えるために、保健局の現場担当者である CHEW への研修を保健局と協働で実施した。

ミアンゲニ準地区など CHV の助言によりトイレが作られた村が複数発現していることから、地域での CHV による保健活動の実践が確認されている。

ミアンゲニ準地区で、3 小学校の保護者や CHV など住民が、地域で実施されている砂採取の作業員が、子どもへの性暴力につながるリスクだとして、砂採取の禁止を求めて、小学校の閉鎖やデモンストレーションを展開し、準郡中央行政局による砂採取禁止の措置を獲得した。この砂採集は、準郡知事の許可によるにも拘わらず、準地区助役が住民を弁護する立場を取り、砂採集を禁止する結論に至った。

ズキニ準地区で、学習会の当日に葬式が行なわれることになった際、他の村の CHV に協力を要請し、学習会の延期を防ぐ事例が発現し、同じ CHU 内で、異なる村の CHV の協力体制が確認されている。

(ウ) 行政関係者との協働

【期待された成果】行政関係者が、子どもの健康と安全を保障するための課題への理解を深め、行政施策や公式発言に反映された。

【成果を測る指標】

行政関係者から保護者・教員・CHV・村長老など住民への子どもの健康と安全の保障につながる当会の事業経験を踏まえた助言事例が発現する。

助言事例:【開始時】0 件;【1・2 年次】計画 15 件に対して 15 件報告

【3 年次】計画 10 件に対して、以下の事例 11 件を報告する。

・NGCDF 監督者である国会議員が当会補修技術を NGCDF 事業に用いるよう指示した。

・ムシングニ準地区助役は、無償での保健活動に関心が低い村を訪問して、村人に CHV の意義を説明し選出を促した。

・保健局行政官の地域保健普及官(CHEW)が、児童官と当会が協働で開発した子どもの保護研修を活用して、CHV へ適切な子どもの権利・保護概念を教える事例 2 件が発現した。

・ミアンゲニ準地区助役は、地域での砂採取が子どもへの性暴力リスクになっているとの住民の主張を支持し、砂採取を許可した準郡中央行政局の許可取り消しの行政施策に変更を寄与した。

・保健局は、主催する保健啓発キャンペーンで CHV を地域の保健活動の主体として認知し活用する事例 2 件が発現した。

・保健局主任公衆衛生官は、既存の CHEW が、その職能に関する知識と認識が不足していることを当会に告知し、復習研修の協働実施を提案した。(復習研修は当会の他の事業として実施)

・保健局 CHS 担当保健官は、CHEW が子どもの保護概念と関連法規への理解を促すため CHEW 研修に取り入れた。

・保健局 CHS 担当保健官は、ある CHEW による CHV 育成の施設研修報告が虚偽であることを認知し、研修のやり直しを指示した。

・教育局長代理は、ズキニ準地区長との協働で、教室補修が停滞している小学校で保護者総会を開催し、校長の学校運営全般に問題があることを確認し、校長の異動を決定して、教室補修を含む学校運営の課題を解決した。

(4) 持続発展性

本事業は、参加する関係者が、子どもの健康と安全を保障するための課題への理解を深め、関連する知識・視点・技能を習得し、活動のなかで具体的な問題分析・合意形成を繰り返すことで自律的に課題へ取り組む能力を高めることを目指しており、持続発展性の獲得を事業のなかに組み込んできた。そのなかで、事業の意図に沿った成果がでており、持続発展につながる効果も発現している。

(ア) 保護者の学校運営能力向上

教室補修では、建設マニュアル・指示書・道具を小学校に供与し、建設技術・職人の監督・資機材の管理・関係者との合意形成と話し合いによる課題解決などを実務研修として実施した。これにより保護者が、持続発展のための総合的な意欲・能力を形成することができた。この意欲・能力を用いて、独自に教室補修や教室建設、その他の設備建設を実施した事例や、NGCDFの支援による教室補修に用いようとする計画も確認されている。

また、当会が育成するCHVの多くは小学校保護者でもあるため、CHVを育成する準地区を、教室構造補修など学校運営能力向上を実施する優先準地区として、事業の相乗効果を目指した。そして、教室補修を実施した小学校で、保護者でもあるCHVが、保護者への各種保健学習会を実施し、子どもの栄養改善につながる学校給食のための乾燥野菜作りや、学校のトイレを建設、掃除するなど自律的な活動も発現している。

(イ) 地域保健戦略の強化

形成するCHUが持続発展するためには、まずは、育成するCHVについて、住民自身が、保健活動は無償で担う意欲・意識が高いCHV候補を見出せるように、選出方法に配慮した。次に、持続発展の基盤構築に必須なことは、保健知識を習得したCHVが、住民から信頼され保健リーダーとして受け入れられることと判断した。このために、CHVが、住民や保護者へ子どもの健康と安全を教え実践を促す保健学習会を実施するよう促し、数多くの学習会が実現し、当会スタッフの参与観察では、信頼関係の向上に大きく寄与している。また、CHVからの聞き取りによると、本事業で習得した、保健に関する知識・技能・視点・態度を活かし、家庭訪問や集会で、トイレや手洗い場の設置など、家庭の衛生環境を整えることや、体調の悪い人や妊娠している母親に、診療所へ行くことを促したり、水を煮沸することの重要性、栄養に関する知識や乾燥野菜の作り方などを伝える活動に加え、地元の理解を得て、教会で、エイズの予防に関する学習会を開催したりするなど、子どもの健康と安全を守る日常活動が確認された。今後も、CHVによる自律的かつ持続的な地域での保健活動が見込まれる。

(ウ) 行政関係者との協働

行政機関は、持続的な組織であるため、行政関係者が子どもの健康と安全を保障するための理解を深め、新たな視点を蓄積することで、地域での住民への指導、政策の優先順位付け・決定・適正な実施に反映されるようになれば、持続発展性が期待できる。

保健局主任公衆衛生官とCHS担当保健官は、(3)達成された成果の事例で報告したとおり、CHVへの行政からの支援として、CHEWの知識や意欲の向上が重要ととらえ、具体的な研修や指導を行っており、事業終了後も継続して実施され、CHEWの活性化によるCHUの持続発展が期待できる。

さらに、保健局へコンピュータと各種研修手順書・各CHVの研修参加記録と活動実践状況などをデータとして供与し、今後のCHUの監督ならびに自律的なCHU形成のための情報資源を供与した。